

(聞き取り記録 5) 岡田京子さんからの聞き取り

晴美さんの最近の様子を聞くために訪問したと説明。

京子さんによれば、「1 ヶ月ぐらい前から、晴美が B 型事業所に行きたがらなくなり、毎日職員が自宅まで迎えに来てくれているが、行きたがらず家で過ごしている」「晴美が 1 日中家にいるので、家でゆっくり過ごすことができない。体が重く、気持ちも晴れないので、掃除や洗濯、食事作りもおっくうになっている。夫の正雄は、仕事が休みの日は家のこともやってくれるが、仕事のある日は帰りも遅いのでやってもらえない」とのこと。

また、これまでの生活について話しはじめ、「母(希美さん)は、しつけに厳しく、学校の成績にも寛容ではなかった。父清司は厳しい面もあったが、時々(京子さんを)映画に連れて行ってくれたり、家族旅行に出かけたりと、家族思いの人だった」とのこと。

京子さんは「中学校を卒業し、専門学校に行くことになったが、専門学校の勉強もついていくことができなくて、家と専門学校の往復の生活だった。専門学校を卒業した後は、アルバイトをしたが長くは続かず、半年ぐらいで転々とした」

「(京子さんが)24 歳の頃、宗教を通じて正雄さんと出会った」

希美さんも清司さんも、京子さんが正雄さんと付き合うことには大反対だったが、京子さんが妊娠したことで結婚を許し、結婚後は、希美さん清司さんと同居した。

「(晴美さんが生まれたが、)言葉が遅かったため、心配した母(希美さん)が晴美を病院に受診させると、知的な遅れがあると言われた」

「(希美さんは、京子さんの)子育ての仕方や家事の仕方など、常に口を挟んできた。正雄さんにも、もっとしっかりしろと何かにつけて文句を言っていた」

子育てと家事に対する希美さんからの厳しいしつけにあって、このころから京子さんは「睡眠と感情が不安定になることがあり、40 歳の時に精神科から薬をもらって飲むようになった」とのこと。

そんな折、家族思いだった父親の清司さんが半年前に病気で他界してしまった。そのことをきっかけに、「(希美さんが)うっとうしくなって、半年前に実家を出て、近所のアパートに引っ越した」

しかし、母親の顔が見たくなる時もあり、時々実家に行ったりするが、晴美さんが就労継続支援 B 型事業所みなみの通所拒否となったことで、「親の責任だ」と、希美さんから責められるようになり、京子さんの気持ちはさらに不安定になったとのこと。

最近のことを尋ねると、「先日、就労継続支援事業 B 型事業所みなみの職員・高橋さくらさんが晴美を自宅に迎えに来たときも行きたがらなかった。母から責められたことを思い出してしまい、晴美に腹が立って叩こうとしてしまった。高橋さんが止めてくれたけど」と、京子さんは話した。

晴美さんは、自宅にいて、テレビでビデオを見ていた。話しかけたが、振り向いただけですぐにビデオの方を向いていた。見た様子では、痣やケガはなかった。